

会員さんからのメッセージ

私にとってのごみ問題

ごみ・環境ビジョン 21 がここま継続できたのは、会員のみなさんのご支援あってのことでした。気持ちの支えはもちろん、財政面でも皆さんの年会費とカンパだけでコンスタントに安定した活動ができました。

ごみっと・SUN の最終号にあたり、会員のみなさんからメッセージを寄せていただきました。テーマは“ご自分のことについて”、“私とごみ問題”、“ごみかんとのお会い”など。

拝読しながら、改めてごみかんはこのように足元でがんばってきた会員さんと共に歩み、支えられてきたのだと胸が熱くなりました。そして、解散を惜しみ感謝してもらえごみかんはなんて幸せなんだろう、と。運営委員一同、心から感謝申し上げます。

吉崎 洋子 NPOごみ・環境ビジョン 21 元理事

物事を動かすのは、結局 <人のつながり> ではないだろうか。はじまりは、長年暮らす町田での日の出処分場学習会。そこで出会った三多摩地域の方々と一緒に、第二処分場反対運動→ごみかん設立のきっかけとなるシュルツさん講演会→ごみ問題を最下流（処分場）から上流域へ、自治体のごみ処理から製品の生産まで遡って考え、対案を提示する…そんな活動へ。

そこには常に専門家の方々、現場を知る事業者や地域に暮らす方々との多様なつながりがあり、活動は地に足のついたものとなった。私たちは、



実に疲れを知らず、熱い思いに突き動かされていた（若かった！）

ハイライトは、ドイツの視察旅行と 4 冊の本を出版できたこと。

「ごみかん」の蒔いた種は、さまざま場所で芽吹き育ち、私たちの知らない場所、知らない方々へとつながり、花開いていくことと信じている。

野嶋 盛次郎 武蔵野市

私は地域で 1986 年から集団回収に取り組みましたが、現在は若い人ががんばってくれていて、ありがたいことです。

ごみかんでは、市民ごみ大学セミナー、古紙のリサイクル工場見学、ごみっと・SUN などたくさん学ばせてもらいました。

私は 2 月 18 日で 103 歳になりましたが、目の夢は、メガソーラーではなく、『地域の公共施設や事業所、個人宅の屋根にもっともっと太陽光パネルをつけて、市内のエネルギー自給率を高めたい』ということです。鉄道の駅の屋根や線路脇もよい設置場所だと思います。

夜、寝床の中でもあれこれ思い巡らせているんですが、次世代にいい環境を残せるよう、原発ではなく再生可能エネルギーをぜひとも実現させてほしいものです。



高梨孝輔 小平・環境の会

ぼくがごみかん創立メンバーを知り合ったのは、今を去ること 30 年以上、日の出の森であった。

日の出は東京都の水源地。そこへ二つ目のごみ処分場をつくるという愚挙に、多くの心ある都民が集まった。幸運というべきか、日の出の森・支える会の三輪啓代表が日の出の森の土地 400 坪を手に入れトラスト運動の根拠地になった。板張りの舞台がつけられ、音楽会や講演会が開かれる解放された空間だった。（2000 年 10 月 10 日、石原慎太郎都知事が強制収用）



根拠地を喪い、ぼくは小平の地でごみ減量・リサイクルを進める活動に集中した。生ごみリサイクルの先鞭をつけ、できた堆肥を使って野菜を作り、菜の花を植えた。

ごみかんは僕らの師匠格で多くのことを学ばせてもらった。初期の「市民ごみ大学セミナー」には殆ど出席した。ぼくらが始めた「生ごみリサイクル交流集会 in 多摩」は第二回以降、ごみかんが主催を引き受けてくれた。感謝したい。その志は今後も生き続けると信じている。

中川 和郎 NPO 法人 八王子市民活動協議会

私とごみ問題との関わりは、たまたま 2013 年 4 月に勤務先の武蔵野市役所でごみ総合対策課に配属されたことでした。職場で「ごみっと・SUN」が回覧されていて、「ごみ・環境ビジョン 21」に入会することになりました。

私が入会した頃は、容器包装リサイクル法などの個別リサイクル法が制定・施行されたこともあり、適正な分別が進み、また多摩地域の自治体で家庭ごみ有料化が進んでいたこともあり、ごみ問題は比較的落ち着いていました。

しかし継続は力なり、何でごみ・資源物を適正に分別し、ごみ減量をしなければならないのかを周知・継続していくことが欠かせませんでした。

ごみ・環境ビジョン 21 に入会したことにより、最新の情報、住民のみなさんのご協力・共創の大切さを知る機会にもなり、私にとって大きな財産になりました。

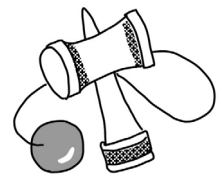


市原 賤香 小金井市

長い間ごみっと・SUN の校正に関わらせていただき感謝している。

小金井市のごみに関しては、生ごみを焼却せずに処理する HDM システムという方法があることを知り、実際に実施している行政へ見学に行き、市議会へ陳情した。2010 (平成 22) 年、全会派一致で採択された。しかし、市はまったく実施しようとはしなかった。結局焼却することが最初からの選択肢だったからだ。焼却は国策だ。国策の壁には何度か直面してきたが、今も原発の再稼働を憂慮している。

頑固で理不尽なこの大手産業との鉄のごとき連携に、どうしたら市民は太刀打ちできるのだろう。ごみかんのような地道な運動が大切なだと改めて思うのだ。



旭 博道 船橋市



ごみ・環境ビジョン 21 には 2023 年に入会させていただき、何回かセミナーに参加して、同じ問題意識を持つ人々がいることに励まされてきました。

コロナ禍の時から健康のために東京湾にある船橋三番瀬海浜公園まで一人で歩くように決めたのですが、その道路脇・中央緑地帯にある投棄されたごみ (タバコの吸い殻・弁当・ペットボトル・缶など) がいずれ飛ばされ、海洋プラスチック問題で報じられる生物の犠牲を想像しました。それでは毎週末、拾っても拾ってもなくなるごみ拾いを続けています。

船橋市は、廃棄物削減の斬新な施策を実施できてはいないので、まずは市役所職員さんと意見交換をし、一市民から行政へ働きかけをしています。

将来のサーキュラーエコノミーの時代のために、「自分ごと」として何をすればよいかを今後も考えて、活動をしていきます。

島 京子 小平・環境の会

小平・環境の会をつくる前、私は中野区に住んでいて「未来からの『やめて!』という命の声が聞こえませんか…」という長い名前の会を年に 1 度、開催していた。

中野区に住んでいた最後の年に、田島征三さんにも来ていただいた。その時に、田島さんから言われたのが、「三多摩に来るんだったら、ごみ問題に係わらない訳にはいかないね」というものだった。その時には、意味が分かっていなかった。それまでだって、焼却場問題などには多少なりともかかわっていたのだから…。

しかし、小平に移り住み『水からの速達』を見る会」実行委員会に加わり、実際に「水からの速達」を見たとき、私は征三さんの言葉の意味がわかると共に、自分の運命を悟った…。日の出の森に映っていたのは、私よりも数か月前に「もうのんびりし

ようと思って」と中野区を離れていった友人だったのだ。かくして、私は今も三多摩在住の一員として、ごみ問題に係っている。



星野 正春 多摩市役所 環境部環境推進課

平成 15 年 4 月にごみ部署に配属され、ごみ・環境ビジョン 21 の江川さんが所属するたまごみ会議さんと一緒に、どのようにごみ減量を市民に啓発するか意見交換をしたり、駅頭キャンペーンなどを協働で行うなどしてきました。



当時は最終処分場の延命化もあり、有料化やプラスチックの分別など多摩地域の自治体が競ってごみ減量を進めなくてはいけない状況で、そんな中でごみ・環境ビジョンの市民ごみ大学セミナーに参加してもらい、学識者、市民、事業者、行政関係者から伺うお話は大変貴重なものでした。

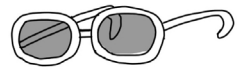
その後、別部署に異動になりましたが、「縁あって？」令和 5 年に資源循環推進課に戻りました。多摩地域の市民が手弁当で始めたごみ・環境ビジョン 21 が、環境分野でのシンクタンクとして担った役割はとても大きいと思いますし、これまでの功績を改めて称えるとともに、そのご苦労に改めて感謝申し上げます。

林 和夫 小金井市 / 三市減量推進市民会議委員

私のごみかんと出会ったのは、小金井市に自前のごみ焼却施設が無く、焼却を他市に依存し、可燃ごみの減量が強く求められていた時期でした。

「ごみっと・SUN」で多摩 26 市のごみ排出量比較をはじめ、プラごみ、生ごみを含めさまざまな切り口で発信される情報は、行政と市民が施策を検討する上で大いに背中を押す役割を果たしてきたと思います。

あれから 14 年。小金井市は共同処理を行う日野市、国分寺市と共に多摩地域のごみ減量をリードする市の



一つになりましたが、三市減量推進市民会議で掲げた「30 年後には可燃ごみを限りなくゼロに近づける」という目標は、まだまだ見通せません。温暖化による地球環境への影響が年々深刻化する現在、『ごみかん』が無くなってもごみ減量の努力は欠かせません。

戸井田久美子 生ごみ堆肥化めぐみネット・羽村

私はいつ、ごみ・環境ビジョン 21 の会員になったのかな？ 覚えていないのですが、とにかく人生の選択肢の中で「良き人でありたい」という思いで生きてきたのですが、それは誰も同じでしょう。

日の出ごみ処分場が一杯になる。そして次の二ツ塚も延命するにはごみを減らすだけじゃ間に合わない！ ごみかんの活動や勉強会を通じてエコおばさんとして名乗り上げて、活動を続けてきました。「生ごみは堆肥化しなくちゃ!!」

日野市の佐藤さんのせせらぎ農園、八王子の青木千鶴さんのコンテナコンポストに刺激を受け、私の段ボールコンポストの普及活動に繋がっていきました。そして不思議な事、嬉しい事。ふるさと金沢でも普及活動をしている小松高校の先輩、北野滋さんと繋がりました。彼はエコ活動をアフリカにも広げようとしていらっしゃいました。

私もまだ道半ば。いろいろな繋がりがあって今があって、これからも続けられそうです。ごみかんに入れていただき感謝いたします。

金沢方式のパンフレット

2008 年ごみ大学セミナー



2017 年
生ごみリサイクル
交流会



2024 年
立川リサイクル
センター見学



西園寺 美希子 武蔵野・生活者ネットワーク市議会議員



私が福島県の理科教員を辞し、武蔵野市に来たのは2000年。「大量廃棄使い捨ての風潮はおかしい!!」との思いで

大学院社会人枠に入った2002年春、「クリーンむさしのを推進する会」を知りました。そこでクリーンセンター見学に参加したのが、ごみ環境の活動と地域活動に「沼る」きっかけでした。

知り合いが増え、コミセン、市長選応援。さらに武蔵野市だけでなく多摩地域へと視点が広がり、ごみかんと出会い、生ごみリサイクル交流集会へ。「市民活動、地域活動ってこんなに豊かなものだったのか!」と驚きました。

そして3.11の衝撃…。その後、市民発電やPFAS問題の活動へと広がっていますが、すべての始まりは「ごみと環境」。ごみかんの皆さんのデータに裏付けられた充実した学習会、読み応えあるごみっと・SUN制作への感謝は、語りつくせません。本当にありがとうございました。

龍神 瑞穂 NPO まちづくりサポート国分寺

ごみ・環境ビジョン21とのご縁は、公募市民として参加した国分寺市環境基本条例、環境基本計画策定のワークショップで、代表の田浪さんとお会いしたことです。入会して情報を得、学びを深めてからはそれを糧に、私も国分寺市において“環境ひろば”や廃棄物減量等推進委員としてごみの減量、生ごみのたい肥化の推進に取り組んできました。この度の解散は晴天の霹靂であり、残念というほかありません。

ごみ問題以外で一番力を注いでいる活動は、野川最上流部の整備計画問題です。ご存じの通り、野川は小金井市より下流部分は、概ね整備が完了し、自然豊かな美しい川になっています。しかし最上流部（国分寺市部分）のみ整備が遅れ、コンクリート3面張りの残念な状態のままとなっています。

整備計画の早期実現に向けて、署名（13,815筆）を集めて都議会に陳情を出したり、国分寺市との協働事業として、座学と散策などからなる「野川源流スクール」をおとただけでなく小学生対象にも開催しています。2022年からは「野川最上流部の整備計画を1000日で実現する会」（野川1000日の会）を立ち上げ、市民を巻き込んだイベントの開催なども行っています。



大沢 豊 日の出の森・支える会

まずは展示会のご案内です。日の出の森・支える会では、4月2日から5日まで「ごみ処理はこれでいいのかわ?」という展示会を立川市女性総合センター・アイムの1階ギャラリーで開催します。

1992年、二つ目のごみ処分場建設を要請された日の出町は同年6月に受け入れを表明しました。しかし一つ目の谷戸沢処分場からの有害化学物質が漏れ出ていることが住民側の調査で明らかになっており、反対運動が起きていました。

処分場建設は「日の出町だけの問題ではなく、ごみを出す側の三多摩住民の問題である」という認識が広がり、1994年9月に「日の出の森・支える会」が発足しました。これまで30年以上に渡ってごみ処分場問題に取り組んできた当会は、高齢化などにより活動を終えます。しかし、解決せずに残る「ごみ処理の在り方」を後世に伝えるために「最後の展示会」を開催します。（チラシ同封）

展示会「ごみ処理はこれでいいのかわ?」

水源地にある美しい森が巨大な処分場になっていった経緯と、現在の日の出処分場の問題点を展示します。（写真、映像、本、資料など）

2026年4月2日（木）～4月5日（日）

10:00～17:00（最終日のみ15:00まで）

立川市女性総合センター・アイム 1階ギャラリー

立川駅北口より徒歩7分

★入場無料

★出展者（予定）：依田彦三郎・宮入芳雄・市川幸平・佐藤孝、たまあじさいの会、日の出の森・支える会ほか

佐藤 まさたか 東村山市議会議員



ごみ・環境ビジョン21に出会って23年。とかく対立・対決のイメージのあった「ごみ問題」ですが、ごみかんは一貫して「対決より解決」であり、だからこそ「参加したい大切な場」でした。

「市民ごみ大学セミナー」は研究者や市民、自治体の担当者、民間企業の方たちによる科学的な報告や生の声、当事者の人知れぬご苦労や挑戦等、立場を超えて実践から学び合える他には例のない場であり、「多摩30自治体の比較」や各地域の取組みを伝えてくださる「ごみっと・SUN」は、いつも大事な情報源でした。

今日まで継続くださった皆さまに心よりの感謝と、一抹…いや十抹ほどの寂しさをお伝えし、ごみかんスピリッツを忘れずに「ごみ」と「環境」に向き合っていくことをお約束します。本当にありがとうございました。

加藤 陽子 神奈川県座間市



30年にわたる活動、本当にお疲れさまでした。ごみ問題はまだ道半ば。世界的にみればプラスチックが大きな問題であり、日本でも拡大生産者責任制度と生産への法規制に踏み込む必要があります。

足元の自治体座間市においては、剪定枝・草の集積所回収による資源化3倍増やミックスペーパー対象拡大による汚れた紙以外全ての資源化により、家庭系ごみの残る課題は生ごみです。

生ごみの回収はしませんが、市民の堆肥を回収し農家への提供を行うプロジェクトを実施する市とともに、市民グループとして生ごみの堆肥化を中心とした資源化食循環の協働事業を行っています。参加する市民を増やすためには基材への助成が必要です。また、削減の進む市民のごみに対して増え続ける事業系ごみについては、県内焼却炉の焼却単価を上げ国・県による生ごみ資源化事業者の育成を図る必要があると考えます。

勝田 映子 元帝京大学 教育学部 初等教育学科教授

ごみかんとのお出会いは2004年。当時、NPOごみ・環境ビジョン21の理事でいらした服部美佐子さんに声をかけていただいたことに始まります。「これ読んでみませんか?」と差し出された「ごみっと・SUN」。その表紙にまず、ぐっときてしまいました。優しさにあふれた楽しいイラスト。それが会の有り様を映しているように思いました。

毎号精読していましたが、特に「多摩地域ごみ実態調査」や「ごみ大学」そして田口理穂さんの「ドイツのエコあれこれ」が楽しみでした。

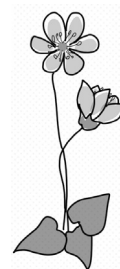
小学校の家庭科教員時代には、ごみかん発行の『ごみ問題を子どもに教えるガイド』を頼りに授業をし、大学教員になってからはごみっと・SUNのデータや記事が講義の強い味方になりました。ご

みかんの功績を今後もことある事に伝え続けていきたいと思えます。これまで本当にありがとうございました。



伊藤 浩子 全国川ごみネットワーク事務局

私は川や海のプラスチックごみ削減の活動をしています。活動を通し、結局は総量削減、ごみとしないことが重要と思わされます。そこで、私たちの生活のごみ問題への理解を深めたいとの思いで、ごみ・環境ビジョン21に入会させていただきました。



「ごみっと・SUN」では、各種データで示すことの大切さを教えてもらうと共に、同じ東京都内でも市部の様々な取り組みを知ることができ大きな刺激となっています。皆さまの長年の地道な活動に敬意を表しております。

最近、自分が住む江戸川区のごみ減量にも市民委員として少し関わることができるようになりました。住民らのごみ削減への思いを高め行動変容するよう盛り上げなくてはならないと思いつけています。プラスチックごみ削減にしても自治体のごみ減量にしても、市民だけでも行政だけでも一方だけでは進めることは困難です。これまでうまく行政とも関わり活動を進めてこられた皆さまの熱き運動がいつまでも手本となります。本当にありがとうございました。

飯田和子 元川崎・ごみを考える市民連絡会代表

田島征三さんの絵本「やまからにげてきた・ゴミをばいばい」を思い出しています。左からも右からも読めるユニークな絵本で、両方向から行き着く真ん中はごみ埋立処分場。生き物の命と人々の暮らしが深く繋がっていることがわかります。



処分場反対運動から生まれた絵本ですが、「ごみかん」も同じですね。ごみかんは、あれから30年。多摩地区のごみ減量活動の先頭に立ち（いや日本のかも知れない）、引っ張ってきました。私たちも、その時々的重要な課題をテーマとする市民ごみ大学に通ったり、情報のいっぱい詰まった「ごみっと・SUN」を読んだり、最新の動向を知りエネルギーをもらいました。

川崎・ごみ連は2012年に閉会しましたが、いまま川崎では焼却ごみの減量が一番の課題です。特に生ごみ堆肥化の活動を「生きごみ隊」や他のグループと協力して続けています。

ごみかんの閉会はとても残念です。これまで本当にありがとうございました。



土方彰子 八王子市

私が暮らす八王子市は多摩地域で一番の人口50万人以上の都市で、当然出すごみの量も膨大です。ごみ・環境ビジョン21の創立当初からの会員である私は、当時、日の出処分場問題を前にして、何とかしてごみを減らさなければと責任を感じていました。そんな私にとって、ごみかんの会員になることで、ごみ問題に関心を持つ仲間がこんなにいるとわかり、とても心強かったものです。

今、八王子市は人口50万人以上の自治体としてはごみ排出量が一番少ないのですが、可燃ごみの半分近くをしめる生ごみは191g/人日と、三鷹市の38g/人日に比べたらなんと5倍も多いのです。市民は生ごみを燃やさず堆肥化することを望んでいます。幸い八王子市には農家さんもまだ多く、立派な堆肥化工場も稼働中です。生ごみたい肥で育った安全で新鮮な野菜を食べる夢を持ち、おいにがんばっていきたいです。

天野悦子 環境を考え行動する会（川崎市）

ダンボールコンポストの魅力にひかれて普及活動邁進中の当会メンバー村山美香子さんに、ごみかんの小野寺さんがごみっと・SUNに連載の「生ごみ自家処理、こうして広めています」の原稿を依頼されたのが貴会との出会いでした。旧ごみっと・SUN93号(2012/11)に「ダンボールコンポストで広がる“人の輪”」と題して掲載されました。無名で駆け出しの当会にとっては、初めての経験でした。



その後「生ごみリサイクル交流会 in 多摩」では、2013年と18年に報告者として参加し、活動紹介をさせていただきました。そしてごみかんの交流会に続けと開催された「かわさき生ごみリサイクル交流会」では、日野の佐藤美千代さんにお話ししていただいたり…。おかげさまで交流会の開催も今年で14回となりました。

貴会の詳細なデータとぶれない活動は、川崎のずっと先を照らし導いてくださり、感謝でいっぱいです。

坂巻真砂子 清瀬ごみともだち

私にとってのごみ問題は文明の問題です。人間が便利な暮らしを求めて地球のことを顧みない状態が納得できない。人間も他の生き物と同様に地球の恵みの上に生きているのだから、できるだけ地球を痛めつけない暮らし方をしたいと思っています。

1986年に清瀬市に転居して以来、そんな思いで生協に加入し、そこで知った『水からの速達』をきっかけに市民グループ「清瀬ごみともだち」に参加しました。そしてごみ袋有料化、発泡スチロールトレイの分別収集などを実現し、ごみ減量をめざしました。

そんな私にとって『ごみっと・SUN』で全国に仲間がいるとわかったことは大変励みになり、ごみかんの情報量、新技術の紹介などに大いに助けられました。

清瀬ごみともだちは制度的なことはほぼやりきり、この10年ほどお茶碗リユースを行っています。若い層へのバトンタッチができれば最高です。



佐藤美千代 一般社団法人 TUKURU 理事
ひの・まちの生ごみを考える会 前代表

私とごみかんと深い関わりは、2010年に始まった「生ごみリサイクル交流集会 in 多摩」がきっかけでした。多摩地域の仲間と準備を進める中で、各地の活動現場を見学し、居酒屋で熱く語り合った時間は、私にとってかけがえのない財産です。地元の日野市を飛び出し、広い視野で得た新しい発想やエネルギーが、活動の大きな原動力となりました。



現在は、循環型の「コミュニティガーデンせせらぎ農園」の活動を機に「一般社団法人 TUKURU」を立ち上げ、消費者が「農ある暮らし」を実践できる「場」と「人」づくりに励んでいます。これまでに新しく3つのコミュニティガーデンを開設しましたが、みんなで生ごみや落ち葉を土に還して野菜を作る営みは、単なる資源化に留まらず、防災や食育、そして人々の癒しの場へと広がっています。

「ごみ問題」から始まった私の探求は、いま「農を通じたコミュニティづくり」へと繋がりました。これまでいただいたご縁を大切に、これからも自然のサイクルに沿った心地よい暮らしを、楽しみながら続けていこうと思います。

中井八千代 容器包装の3Rを進める
全国ネットワーク運営委員長

- * 私にとってのごみ問題：ゼロエミッションをめざして！ライフワークです。
- * ごみかんにまつわる思い出：2003年10月に、3R全国ネットの前身である「容器包装リサイクル法の改正を求める全国ネットワーク」の設立呼びかけ団体(24団体)として、ごみかんと共にスタートし、全国200団体+個人200人と、国会請願署名100万筆提出等、鋭意活動を続けてきたことです。
- * これから取り組むべき課題(問題点):
 1. 責任の明確化：世界的な潮流である「拡大生産者責任」の徹底。
 2. 2Rの優先：「リデュース・リユース」の促進。
 3. 安全な未来：プラスチック内の有害物質規制と、自然素材への代替。
 4. 国際プラスチック条約の制定



佐々木義春 多摩市リサイクル協同組合

大量生産、大量消費、利便性を求める消費者意欲の高まり等を背景に廃棄物の排出量が増大しました。一方、最終処分場等が逼迫する等、廃棄物処理体制の抜本的見直しが求められ、平成3年に廃棄物の発生抑制減量化等を柱とする廃棄物処理法の改正が行われ、平成5年頃には市町村行政において古紙、古布等分別回収の拡充強化のため、我々地域の再生資源取扱業者との連携が広がりました。

そして30数年、再生資源循環と廃棄物減量は関連性を持つ社会の重要な課題となっています。そのようなご縁の中、ごみかさんのセミナーでは講師として現場の実情を聞いて頂いたり、市民の視点での情報に触れるなど、多くの知見を深めることができました。この30年、ともに歩みを進めて来られましたことに感慨深い思いであります。改めて心より感謝申し上げます。



深澤洋子 小平・環境の会

私が環境問題に関わるようになったきっかけはチェルノブイリ原発事故でしたが、その後小平市へ越した頃にはダイオキシン問題が持ち上がっていて、小平・環境の会に参加することになりました。日の出の処分場や小平市の焼却炉建て替えの問題にも積極的に関わりましたが、そこからさらにいろいろな巡り合わせで、東京の水問題として八ッ場ダム住民訴訟の一角を担うことにもなりました。今はまた小平で、人工芝やマイクロプラスチックなど、身近な問題に取り組んでいます。

私たちにのごみ問題は、まさに三多摩のごみ問題のセンターで、正確な情報、最新の動向を提示してくれる頼れる存在。

その情報が「ごみっと・SUN」のおしゃれでかわいいデザインで届けられることも楽しみでした。ごみかんの終息はとても残念ですが、世代交代の難しさは私たちも実感しています。次の世代が彼らなりの方法で、ごみかんの遺産を引き継いでくれるよう願っています!

